

子どもネットワークセンター天気村

(草津市)

大学生ボランティアらと一緒に子どもたちが公園を駆けまわる。歓声につられ、見守る地域の人らも思わずほほ笑む。

山田貴子村長(西むら)が企画する野外活動保育や自然体験教室には「薄れていく地域のコミュニティを取り戻したい」との思いが込められている。

少年犯罪気になり

当初はダンスや演劇の練習を自由に行うフリースペースだった。が、相次ぐ少年犯罪や子どもの自殺などを聞くにつれ、子どもを取り巻く環境が気になりだした。

「思いっきり外で遊び、喜ぶ子どもの笑顔が、大人や社会を変えるのではないか」。屋外の遊びを基本と

する幼児教室を開設し、二〇〇一年四月には「こんぺい」とう保育園」をオープンさせた。

お寺の境内で遊んだり、近くの畑で野菜を育てたり。野外活動は、くありふれた内容だが、その際、スタッフや学生ボランティア

アが地域住民に話しかけ、また話しかけられたりする

のが特徴だ。コミュニケーションを通じて知り合った大人たちが、地域のボランティア活動に積極的に参加するようになったとい

体験教室を充実へ

二〇〇〇年四月には子どもが地域活動に参加するき

地域活動にエココイン



っかけづくりとして「エココイン」を作った。地域のイベントや天気村主催の体験教室に参加するとコインがもらえ、全十二種類集め

二〇〇二年には自然体験教室をさらに充実させる。山や川、湖は連携しあって自然をかたちづけている。そのことを、子どもたちと学んでいきたい。「キャッチフレーズだけの『ふれあい』でなく、本当に人や自然にふれあい、学べるよう活動していきます」。山田さんは熱く語る。

野外活動で地元とふれあい

